

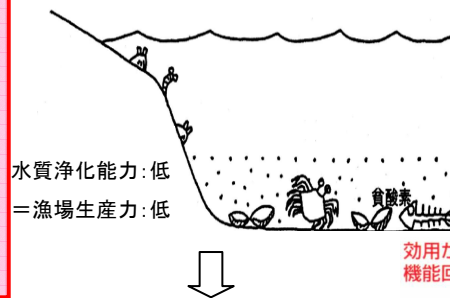
広域的な干潟・浅場造成による漁場の環境改善、生産力向上

○愛知県三河湾地区の事例

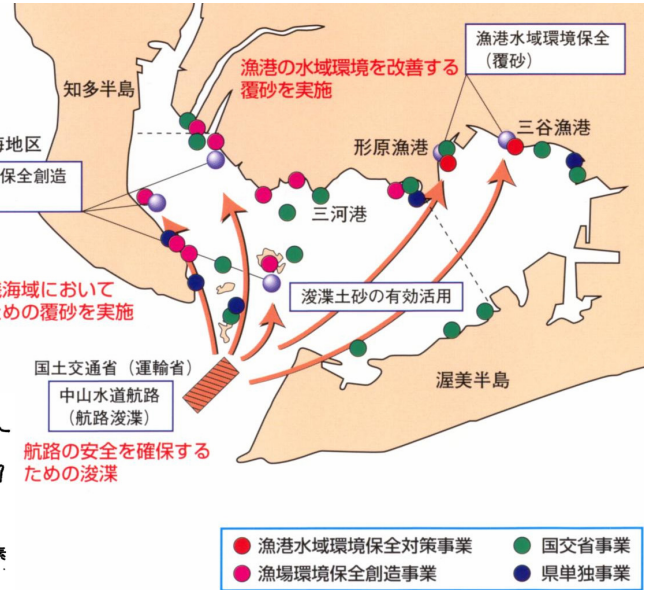
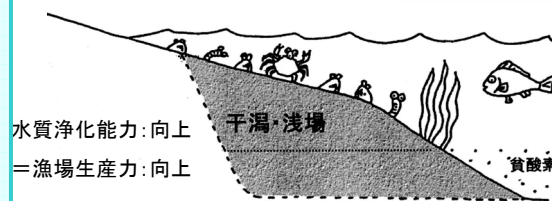
【主な課題】

浅海水域(水深10m程度)の閉鎖性、流入河川の環境負荷、埋め立てによる干潟喪失等により、
 ・湾内が富栄養化→赤潮、青潮が発生
 ・有機物が海底に沈積し、酸素を消費。海底は貧酸素状態
 →二枚貝の生息が困難となり、水質浄化機能、漁場生産力が低下
 ⇒当該地区は県下のアサリ主要漁場であるが、猛暑にアサリの大量へい死が発生する等、漁獲の減少が見られる

底生物量は多いが貧酸素水塊による消耗が激しい



貧酸素水塊の影響を受けないため底生物量が多くなる



【事業・取り組み】

- ・湾内の浚渫土砂を盛砂し干潟・浅場を造成
 底質の悪化や貧酸素水塊の影響が見られる水域において、水深3.0m前後まで地盤を嵩上げ
- ・国土交通省との事業連携により浚渫土砂を覆砂に活用
 コスト縮減を図る(工事費5,968百万円の縮減)
- ・三河湾浅海地区漁場環境保全創造事業
 (H12~H16、造成180ha、土量158万m³
 中山水道航路整備事業による浚渫土砂を利用)

【事業効果】

- 漁場環境の改善
 赤潮、青潮の発生件数は微増傾向にあるが、発生延べ日数では平成6年を頂点に減少傾向
- 漁場生産力の向上
 干潟・浅場造成により、アサリ・バカガイの良好な漁場が形成され、アサリの種苗放流の重要な場となる
 造成された干潟・浅場においてアマモ繁茂が見られる
- 二枚貝類生産量の増大
 アサリ 6,355t/年(H6~H7平均)→9,047t/年(H14~H15平均)
 バカガイ 697t/年(H6~H7平均)→1,679t/年(H14~H15平均)
- 都市漁村交流の促進
 干潟・浅場におけるアサリ潮干狩り漁場としての活用

